項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標	結果	成果と課題	改善策･向上策	家庭地域学校協議員の評価
豊かな心	○思いやりの心を育てる ･挨拶でつながろうトモダチ作戦 ･場に応じた言葉遣い	(取組指標) 職員や来校者、友達、地域の人々、家族への挨拶の励行を指導した。	教職員１	90	100	目標数値に近い結果を残すことができたものの、年度初めに比べて、後期は元気にあいさつできる児童が少なくなった。	今年度はあいさつに関する全校での取り組みが少なかった。学期ごとや登校班ごとのあいさつ運動の実施方法を工夫し、あいさつはされた側だけでなくした側もうれしいという実感をもつことが必要である。あいさつの意義や必要性も含めて、継続的に根気強く指導を重ねる。	･交通安全期間に校門の前で子どもたちに声かけをすると元気にあいさつを返してくれると大変うれしい気持ちになる。全員が元気よくあいさつができるようになるとよい。 ･児童は地域の人にもあいさつをしっかりとしてくれている。 ･社会人になっても、まずあいさつから始まる。あいさつ指導は、教育のすべての場面で指導してほしい。
		（成果指標） 言葉遣いに気を付け、家族や地域の人々、先生･来校者、友達にあいさつした。	児童１	85	87			
		（満足度指標） お子様は、家族や地域の人々･友達に挨拶をしている。	保護者１	80	79			
	○魅力ある学校づくり 心のケアに努め、不登校やいじめのない学校を目指す ･気がかりな児童連絡（毎日）、アンケート･教育相談週間、子ども支援会議等を定期的に実施	（取組指標） 他の職員と協力して、児童の心のケアや教育相談、生活指導に取り組んだ。	教職員２	90	94	いじめアンケートや心のアンケートなどで定期的に児童の思いや悩みを聞き取り、教育相談につなげることができた。 SCの先生の認知度が上がったことで、悩みを打ち明けやすくなっているようである。	SCの先生とできるだけ早く打ち解けるために、年度の初めに学級に入ってもらい、ポジティブ教育などの授業を行っていただく。授業の内容は、低･中･高学年で同じにして、内容が定着しやすいようにする。	･先生や友だちに、うれしかったこと、困ったことなどなんでも話せる雰囲気作りが大切である。 ･今年度同様、きめ細やかな指導をお願いしたい。
		（成果指標） 先生やカウンセラー、家族に自分の気持ちを伝えることができている。	児童２	80	82			
		（満足度指標） お子様は、学校での出来事や友達のことについて、先生や家族によく話してくれる。	保護者２	80	89			
	○思いやりの心を育てる ･縦割り班活動（フレンドタイム）の定期的な実施	（取組指標） 縦割り班活動などを通して全校児童が互いに認め合う心が育つよう努めた。	教職員３	90	94	縦割り班活動などを通して、互いの良さを発見し、認め合う心が育つよう努めることができた。 教職員、児童に比べて保護者の結果が低くなっている理由として「わからない」という回答が多かった。	保護者の結果の１割以上は「わからない」という回答だったため、HPやお便り等を活用して、学校での様子を伝えていく必要がある。保護者の質問に対して、より明確に回答していく必要がある。	･縦割り班活動は、思いやりをはぐくむための活動として有効であると思う。 ･保護者は「縦割り班」の意義や内容が分からないので、説明する必要がある。 ･学校での縦割り班活動だけでなく、そうじや登校班、地区子ども会など、異学年との交流はあるが、学年問わず仲が良いか問われると「はい」とは回答しづらいのではないか。
		（成果指標） 縦割りでの活動などに協力して取り組んだ。(ﾌﾚﾝﾄﾞﾀｲﾑ･大石ランド･清掃など)	児童３	90	89			
		（満足度指標） お子様は、学年を問わず周囲の子と仲良く活動している。	保護者３	90	78			
	○思いやりの心を育てる ･道徳教育、人権教育の推進	（取組指標） 学校生活全体を通じて、相手を認め、思いやる気持ちが育つよう指導した。	教職員４	90	100	学校生活全体を通じて、相手を認め、思いやる気持ちが育つよう指導することができた。どの項目も目標を大きく上回る結果であった。	来年度以降も工夫して取り組み、温かい人間関係作りに努める。 学校全体で、児童も教員もネガティブな言葉を避け、ポジティブな言葉を積極的に使っていけるよう方策を考える。	･道徳、人権教育は子どもたちの成長に大事であるので、推進していってほしい。
		（成果指標） 思いやりの気持ちをもち、人にやさしく接している。	児童４	80	90			
		（満足度指標） お子様は、他者に思いやりの心をもって接している。	保護者４	80	86			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標	結果	成果と課題	改善策・向上策	家庭地域学校協議員の評価
豊かな心	**〇魅力ある学校づくり** **心のケアに努め、不登校やいじめのない学校を目指す** **・通級、特別支援体制の充実** **・外部機関との連携** **〇思いやりの心を育てる**	(取組指標) 通うのが楽しい学校づくりに努めた。	**教職員5**	95	94	目標数値に近い結果を残すことができた。	「学校が楽しくない」と答えた児童について、原因を考えたり、相談活動を進めたりして改善を目指す。 学校では氷山モデルなどの研修を行っているので、それを活かして児童の訴えや言動が何に起因するのか、どんな背景があるのか丁寧に考える。 児童の質問項目について見直す必要がある。	・子どもたちにとって学校は楽しいところだと思えるよう今後も取り組んでほしい。 ・学校が楽しくないという児童への対策を重点的にすべきである。
		（成果指標） 学校に通うのは楽しい。	**児童5**	90	91			
		（満足度指標） お子様は、学校に行くのを楽しみにしている。	**保護者5**	85	85			
	〇魅力ある学校づくり **心のケアに努め、不登校やいじめのない学校を目指す** **・通級、特別支援体制の充実** **・外部機関との連携** **〇思いやりの心を育てる**	(取組指標) いじめの未然防止・早期発見を心がけ、日々の児童観察・情報収集に取り組んだ。	**教職員6**	95	94	教職員、児童に比べて保護者の数値が極端に低くなった。3割以上の保護者が「わからない」と回答していた。	相手がどのような思いを抱くか深く考えずに言葉を発してしまう児童がいるので、日頃から思いやりの気持ちの大切さを全体的に指導する。 問題のある言動を確認した場合は、すぐに対応し、自身で内省できるように支援する。 保護者の質問項目は学校を問うのではなく、「お子様はいじめは絶対にしてはいけないことだと理解しており、いじめをしないよう心がけて過ごしている」にするなど、保護者が評価しやすい質問にするとよい。	・相手が気にしている身体的なことなど、悩み事に関して発言してはだめだと毅然と指導してほしい。 ・目くばり、気くばり、心くばりが大事であるので、地域との連携をさらに深めて地域全体で子どもを育てるという地域にしたい。まち協との連携なども進めてほしい。 ・保護者の3割が「分からない」と回答しているのは、子どもだけでなく親もいじめの定義が理解できていないのではないか。また、親は学校での子どものことを把握できていないので、「分からない」という反応が多くなるのだろう。
		（成果指標） いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしないよう心がけ行動した。	**児童6**	85	85			
		（満足度指標） 学校はいじめを「しない、させない、見て見ぬふりをしない」よう取り組んでいる。	**保護者6**	85	58			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標	結果	成果と課題	改善策・向上策	家庭地域学校協議員の評価
確かな学力	**〇主体的、対話的な学びを意識した授業づくり** **・対話を生み出す学習課題や展開の工夫** **・学びを自覚できる振り返りの工夫**	（取組指標） 主体的な学びとなるよう、授業改善(対話を生み出す学習課題、展開の工夫、振り返りの工夫）に努めた。	**教職員7**	100	94	授業で、話し合い活動を積極的に取り入れたことで、対話を楽しむ児童が増えた。 「主体的な学びができているか」については、保護者の評価が低かった。	児童の興味のあることを学習課題として授業を進めたり、タイムリーな話題や時事に関する問題について児童一人一人が調べ学習をして臨めるようにしたりするなど、個人の学びと全体の学びを行き来できるように工夫する。主体的に学習に取り組むことの楽しさを味わい、進んで取り組もうとする習慣をつける。	・子どもたちが自主的に、目的意識をもって学習することは素晴らしい。大人から与えられた事をやるのでは主体性は育たない。 ・低学年と高学年では、話し合い活動の内容に差異がある。成長に応じた段階的な指導が必要である。
		（成果指標） 授業では、自分の考えを書いたり話したり友達と話し合ったりして、理解を深めた。	**児童7**	80	88			
		（満足度指標） お子様は、授業の内容を理解し、主体的に学習している。	**保護者7**	80	72			
	〇主体的、対話的な学びを意識した授業づくり **・ICT機器の活用**	（取組指標） 学習では、ICT機器を積極的に活用した。	**教職員8**	100	89	ICT機器の活用により、学習に対する児童の興味・関心を高めることができた。また、タブレット端末の様々な機能を使って、自分の考えを分かりやすく伝えるなど効果的に活用ができた。 タブレットによるトラブルを避けるため、持ち帰っていないので、家庭では、タブレット利用状況について理解されていない。	ICT機器活用について、年間計画を立て、教員間で実践例や効果的な活用を共有すして、学びの充実を図る。 次年度からはフィルタリングソフトが運用されるので、家庭学習でも積極的に利用し、ズームなどオンライン活用を工夫することで、ニーズに合わせた学習を拡大する。 学校便り等でタブレットを利用した授業風景を発信する。	・タブレットを持ち帰ることも少ないので、保護者の回答が48%という結果になるのは仕方がないのではないか。 ・保護者へ、タブレットを活用する学習効果や留意点などをわかりやすく提示・発信していくべきだ。
		（成果指標） タブレットを使って、学習することができた。	**児童8**	80	93			
		（満足度指数） お子様は、タブレットを効果的に使って、学習している。	**保護者8**	80	48			
	〇対話を支える語彙力、表現力の育成 **・語彙の獲得や深い考えを引き出す読書、調べ学習、話し合い活動の充実** **・発表、発信の場の設定** **・スピーチタイムの充実**	（取組指標） 対話の基盤づくりや対話力育成に結び付く手立てを工夫した。	**教職員9**	100	89	全学年で、対話的な活動の土台となる話しやすい雰囲気づくり、学級風土づくりを心がけた。そのため、安心して聞いたり話したりできる環境を整えることができた。 朝会では、児童によるスピーチの時間を設け、大勢の前で発表する機会をつくることができた。スピーチのスキルについては個人差があり、話すことが苦手な児童もいる。	発表・発信の場をグループから全体へ、クラスから同学年・異学年へと、少しずつ広げ、自信をもって話せる児童を増やす。また、他の児童の発表を聞いて話し方や話す内容を学べるようにする。 今後も聞く・話すスキルを向上させ、語彙力や表現力を高める指導を継続する。	・継続して続けてほしい。
		（成果指標） 話し合い活動や発表の場では、相手に伝わるように意識して話した。	**児童9**	80	84			
		（満足度指数） お子様は、他者との対話を楽しむことができる。	**保護者9**	80	88			
	〇対話を支える語彙力、表現力の育成 **・読書タイムの充実、家読の継続**	（取組指標） 児童が進んで読書するための取組を工夫した。	**教職員10**	80	78	読書月間には、読み聞かせや読書マラソン、絵本パズルなどの取り組みがあり、読書を楽しんだり、読書に親しんだりできる児童が多く見られた。図書室の来室者も、全学年にわたっている。 家庭ではほとんど読書する時間がないようで、保護者の評価は低かった。	図書室では、これまで同様、学校司書や図書ボランティアと協働して、読書に親しめるようにおすすめの本を提示したり飾り付けなどを工夫する。書架の整理やディスプレイにも取り組み、継続して、全学年の図書室利用と望ましい読書習慣の確立をめざす。 家でも読書したり新聞を読んだりできるよう、週末に限らず家読を推奨する。	・本を読む習慣は素晴らしいので、継続していただきたい。新聞を使った授業も必要だと感じる。 ・本を手に取って読むという行為が減っている。タブレットの普及で、新聞、マンガ等もタブレットで読める。 ・社会全体が文字離れしていて、保護者も本を読まない人が多いので、家ではなかなか難しいと思うが、せめて学校では読書する機会を持ち続けてほしい。
		（成果指標） 学校で本を読んだり、家読に取り組んだりした。	**児童10**	80	77			
		（満足度指数） お子様は、家読（うちどく）や親子読書に取り組んでいる。	**保護者10**	80	51			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標	結果	成果と課題	改善策・向上策	家庭地域学校協議員の評価
健康安全	**〇健康な生活習慣の育成 ・「自分の健康を意識する」取り組みの充実（病気予防や体調管理など）**	（取組指標） 「十分な睡眠、朝ご飯」をはじめとした健康の大切さを指導した。	**教職員11**	90	94	学校では健康の大切さについて指導を行っている。また保護者も意識して健康な生活を送れるよう環境を整えていることが分かる。しかし、わずかに児童の評価が目標値より低かった。	保護者の評価は高いが、児童の評価が低いので、学習習慣アップカードの項目に「十分な睡眠、朝ご飯」の項目を入れ、児童が日頃から意識できるようにする。	・児童の評価が低いのは自己評価が低いということなので、むしろよいこととととらえている。今後の改善につながると思う。 ・日々の生活のリズムを守ることが重要である。
		（成果指標） 「十分な睡眠、朝ご飯」など自分の健康を意識して生活することができた。	**児童11**	90	88			
		（満足度指標） お子様には「十分な睡眠をとる」「朝ご飯を毎日食べる」など健康な生活習慣が身に付いている。	**保護者11**	80	92			
	〇安心安全な生活の実践 ・食の安全や大切さについて学ぶ食育の実施	（取組指標） 食べ物に対する感謝の気持ちを育み、好き嫌いせずに、バランスよく食べることの大切さを指導した。	**教職員12**	90	89	教職員、児童、保護者ともに目標値を下回った。給食では、ほとんどの児童が好き嫌いせずに食べているが、家庭では、児童は嫌いなものを食べないようである。そのため保護者の評価が低いと考えられる。	給食献立表や給食便りがペーパーレスになり、児童や保護者がその内容を確認する機会が減っている。そのため、児童には、学級に配付された給食便りの内容を担任が紹介したり、日々の給食指導や家庭科の授業などで、食育指導を心がけたりする。	・地産地消の取組など、給食を利用して指導することも大事。 ・夕食とかぶらないようスマホを開けばメニューが見られるのは安心。 ・家庭で、好き嫌いが多いから保護者の評価が低いのではないか。
		（成果指標） 食べ物に感謝し、好き嫌いせずにバランスよく食べることができた。	**児童12**	90	83			
		（満足度指標） お子様は食べ物に感謝し、好き嫌いせずにバランスよく食べている。	**保護者12**	80	75			
	〇安心安全な生活 ・登下校時、学校内での安全指導、交通安全教室実施	（取組指標） 登下校時や校内での安全・防災・防犯について継続的に指導した。	**教職員13**	90	100	地震や火災を想定した避難訓練は、授業中や休み時間など条件を変えて実施し、さらに不審者侵入に対する避難訓練、水害による垂直避難訓練、引き渡し訓練、自転車教室（3年生）交通安全教室（1年生）など、計画通り実施することができた。 校内における廊下の歩き方は、指導を要する児童が見られる。	危機管理の観点からも、様々な想定の下、今後も避難訓練や引き渡し訓練を行い、より迅速により安全に実施することをめざす。 また登校班長会を開き、登校中の困り事について話を聞き、大きな事故などにならないよう個別に指導を行う。廊下の歩き方については、根気強く指導を行う。	・通学バス利用が増えたため、集団登校が減ったのはさみしい。昔のような上級生が下級生を思いやりながら登校する姿がなつかしい。 ・集団登校の仕方が悪い。歩道から飛び出る児童がいる。再度登校のルールについて指導し、きまりを守らせる。 ・安全指導は、継続して行ってほしい。
		（成果指標） 登下校時や校内での安全防犯に気を付けた。	**児童13**	90	91			
		（満足度指標） お子様は、登下校の際、安全に気を付けている。	**保護者13**	90	88			
	〇体力の向上 ・業間の全校運動（体力パワーアップ作戦）の継続	（取組指標） 運動会・マラソン記録会などの行事や休み時間等で運動することを奨励した。	**教職員14**	90	89	概ね目標値を達成することができた。業間マラソンでは、児童が意欲的に取り組み、走力の向上が見られた。マラソンカードや縄跳びカードなどを活用することで、児童の意欲が高まった。	マラソンや縄跳びなど体育に関するカード類をまとめてファイルし、昨年度の記録と比較することで意欲付けを図る。	・児童が通学や家庭で歩くことが減り、体力は落ちているように思う。体を動かす楽しさを感じてほしい。
		（成果指標） 運動会やマラソン・なわとびなどの活動に、一生懸命取り組んだ。	**児童14**	90	94			
		（満足度指標） 学校は、子どもの体力づくりに努めている。	**保護者14**	80	80			
	〇安心安全な生活 ・防災・防犯教育の充実、避難訓練、引き渡し訓練、ネット利用、情報モラル教育、ひまわり教室等の実施	（取組指標） SNSの適切な活用と情報モラルの指導を含めて、学校や社会のきまりを守るよう指導した。	**教職員15**	90	89	教職員や児童は概ね目標値に到達しているが、保護者の評価が低かった。スマートルール春江の平日1時間、休日3時間のルールを守るのはかなり難しいようだ。	今年度は外部講師による情報モラル教室が実施できなかったが、次年度は全校児童、保護者に向けて実施できるとよい。 学級活動の時間に情報モラル教育についての有効なサイト（NHKforschoolなど）を活用する。	・SNS等の情報が氾濫しているので、情報モラル教育はますます大事になってくる。 ・塾でもタブレットを使用するので、スマートルール春江に記載されている時間を守ることは難しい。
		（成果指標） 学校や社会のきまり、SNSの約束（スマートルール春江）を守った。	**児童15**	80	83			
		（満足度指標） お子様は、学校や社会・SNSのきまり（スマートルール春江）を守って生活している。	**保護者15**	80	70			

項目	具体的取組	評価の観点	評価者	目標	結果	成果と課題	改善策・向上策	家庭地域学校協議員の評価
信頼される学校	**〇開かれた学校づくり** **・各種お便りやブログ等で積極的に情報発信** **・（定期的な学校開放）**	（取組指標） 開かれた学校づくりに向けて、積極的に授業公開・情報発信に努めた。	**教職員16**	95	89	・お便りやブログを通して、児童の学校生活を伝えることができた。 ・データで保護者に送るので、ペーパーレスにつながった一方で、児童がお便り等を目にする機会が極端に減ってしまった。	・児童のタブレットに送信したり、教室のTVに映し出したりしながら、ある程度説明する機会を作っていく必要がある。 ・学年通信に児童の欄を作るなどして、児童が作成にも関わることで、自分から見ようとする姿勢を育てていくことも必要。	・ペーパーの時代でも、確認せずに処分することも多かったので、ネットでのお便り配信はいいと思う。 ・広報誌も以前のように紙で見ることが減ったので、学校の様子がわからないのはさみしい。 ・学校関係者にもH&Sに登録してもらう。 ・情報の速さや正確性は進んでいるが、私たちがじっくりと共有しなければならない重要な情報が共有できていないので、対策が必要。 ・学校からの連絡は時間帯を決めて、日中は「緊急性のあるもの」、夕方以降は「通常のお便りやお知らせ」にするなどの工夫が必要。
		（成果指標） 学校や学年からのお便りやお知らせ・ホームページなどを見たり読んだりした。	**児童16**	90	68			
		（満足度指標） 学校は、ホームページ(ブログ)、お便り、メール、学校公開など、学校生活の様子を積極的に発信している。	**保護者16**	85	95			
	〇地域・家庭との連携 **・地域の自然、人、歴史、施設等を生かした「ふるさと教育」教育活動の展開** **・家庭や地域・PTAと連携した、あいさつ運動や見守り活動の実施** **・保幼小接続、小中連携の推進**	（取組指標） 「ふるさと」を愛する心を育てるために、校外学習やボランティア、外部指導者を招いての学習を可能な範囲で取り入れた。	**教職員17**	90	89	2年生の生活科、3年生の総合的な学習、5年生の米作りや緑の少年団活動、6年生のふるさとCM制作など、これまで実施してきたことを少し工夫して「ふるさと学習」を実施した。いずれも目標値には達していないが、コロナ禍も明けたので少しずつ広げていけそうである。	・ふるさと学習については、6年間を通して系統的に進める必要があるので、学年ごとにまとめたものを作成する。 低：大石地区　まち探検 中：坂井市　ユリ 高：福井県　CM作り ・ふるさと学習でまとめたレポート等や学校だよりをコミセンやユリの里に掲示させてもらい、地域の人にも発信する。	・大石地区の歴史など、ふるさと教育の充実を進める。まち協との連携が大事である。 ・児童は今までいろいろな機会にふるさとについて学んできている。学んだことを地域に還元する力（発信する力）が必要である。 ・さつま芋を学校の畑で栽培することは可能か。
		（成果指標） 校外学習やボランティア、外部指導者を招いての学習で、ふるさとを知り、そのよさに気づくことができた。	**児童17**	90	87			
		（満足度指標） 学校は、校外学習やボランティア、外部指導者を招いての学習に積極的に取り組み、ふるさと教育の充実に努めている。	**保護者17**	90	79			
	〇地域・家庭との連携 **・家庭や地域・PTAと連携した、あいさつ運動や見守り活動の実施** **・家庭と連携した「スマートルール春江」の啓発** **・保幼小接続、小中連携の推進**	（取組指標） 保護者と情報を共有し、家庭との連携強化に努めた。	**教職員18**	85	94	今年度もあいさつ運動に、まちづくり協議会や民生委員のみなさんが参加してくださった。また今年度は2月に感謝の会をして、地域のボランティアの方に感謝を伝えた。 マラソン記録会には幼保園の園児が応援してくれたり、体験入学会をして園児を招いたりすることができた。 しかし、保護者からは「わからない」という回答が多かった。	次年度も、地域ボランティアの方を招いて感謝の会を行う。保護者も参観できるので、地域とのつながりや取り組みを伝える機会にしたい。 幼保園との交流が無理なくできるよう工夫する。	・大石小の子どもたちは地域の宝。学校だけでは限界があるので、まち協など地域、家庭との連携、協力関係確立の重要性を感じる。 ・児童と保護者が一緒に登校する機会を設定し、通学路の安全を確認したり、安全指導をしたりしながら登校する。その際、通学路のゴミ拾いを行い、学校で分別するという活動も入れてほしい。
			児童18					
		（満足度指標） 学校は家庭や地域・PTAと連携した取組を行っている。	**保護者18**	85	77			
★	**業務改善への取組**	（取組指標） 一手少ない指導・目標時間の明確化・仕事の組織化・校務分掌上の文書やサーバー内の整理等、 業務改善に取り組んだ。	**教職員19**	90	89	業務が立て込んでいる年度はじめは超過勤務時間が60時間を超える職員がいたが、それ以降はほぼ全員40時間内にとどまった。	児童の自律性を高められるような指導を心がけ、目標時間を設定して効率的に業務を行う。校内の整理整頓に努める。データを安全かつ使いやすく整理する。	・見守り隊や学校ボランティアに対する感謝の会開催はよかった。ありがとうございました。